

## 忘れていませんか焦点サイズ！ 使用しているプロトコルを見つめてみませんか？

座長 医療法人社団共生会中条中央病院  
風間 清子

昨年度までのテクニカルミーティング CT 部門は、検査に適した FOV を選択し、選択被写体をガントリ中心にポジショニングすることで、CT-AEC を正しく作動させ、空間分解能を損なわず、検査を行うことの重要性を再確認しました。

今年のテーマは、今まで導かれた内容を踏まえ「忘れていませんか焦点サイズ！使用しているプロトコルを見つめてみませんか？」にしました。CT 装置には大焦点と小焦点を二つ持ちますが、あなたは日常使用している CT 検査のプロトコルで焦点サイズを答えられますか？また、なぜその焦点サイズを選択しているか理由が答えられますか？

プロトコルを考えると、Helical-Configurations や Helical Pitch や Rotation time を気にしますが、意外と忘れられているのが焦点サイズを選択だと思われます。小焦点で大線量を使用できる CT 装置もありますが、多くの装置では小焦点の使用に装置側の制限があります。今回のテーマでは、体幹部の検査を対象とせずに頭部 CT 検査 (Conventional スキャン) を対象とします。焦点サイズが変わると MTF はどんな変化をするのか、また低コントラスト分解能はどう変化するのかを次の 2 名にお願いしました。

加藤大樹さん (秋田大学病院) は、焦点サイズと MTF の関係について、鈴木崇夫さん (済生会新潟第二病院) は、焦点サイズと低コントラスト分解能の関係について報告していただきます。

検査のプロトコルを作ることは誰もが行うわけではありませんが、いつも使用しているプロトコルの中身の意味を理解することは、より良い検査をするために大切なことだと考えます。会場の皆さまとご質問・ご意見を交換し、明日の検査に結びつく知識を共有したいと思います。

皆さまの多数のご参加、心よりお待ちしております。